


企画展



圏央道の遺跡

～埼玉の発掘調査 西から東から～

平成26年1月2日（木）～2月16日（日）

主催： 埼玉県立
歴史と民俗の博物館
Saitama Prefectural Museum of History and Folklore
共催：（公財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団
協力：国土交通省関東地方整備局 大宮国道事務所
北首都国道事務所

長野産黒曜石の石器を多量に発見

1 西武蔵野遺跡（入間市南峯）

西武蔵野遺跡は、青梅 IC と JR 八高線の間、入間川支流の霞川右岸の武蔵野台地上に立地する旧石器時代の遺跡です。県内の圏央道建設に伴う調査で発掘された遺跡の中では最も西側に位置しています。

遺構は、石器集中8か所と礫群11か所が発見されました。出土した石器約1,750点のうち、9割以上が透明度の高い良質な黒曜石で、分析の結果、原産地は長野県八ヶ岳に由来するものであることがわかりました。

【展示出品資料】

尖頭器3、ナイフ形石器2、彫器2、搔器3、搔・削器2（旧石器時代）

縄文中～後期の大集落

2 坂東山遺跡（入間市小谷田）

坂東山遺跡は、圏央道と国道299号BPが交差する、霞川左岸の標高117mの加治丘陵東端に立地する縄文・室町時代の集落跡で、国道建設等に伴う調査で縄文時代中～後期の環状集落であることがわかっていました。

圏央道の調査では、入間川で採れる河原石を床面に敷き詰めた、縄文時代後期の柄鏡形敷石住居跡2軒が新たに発見されました。室町時代の土壌からは、延徳4（1492）年の同じ紀年銘のある板碑8基が出土しました。

【展示出品資料】

深鉢6、石鏃3、打製石斧3、磨製石斧1、石皿・凹石1（縄文時代）
板碑10（室町時代）

縄文前期の狩猟キャンプか？

3 坂東山西遺跡（入間市上小谷田）

坂東山西遺跡は、西武池袋線入間市駅の南西約2km、入間川と霞川に挟まれた加治丘陵上に立地する縄文時代の集落跡です。

調査では、縄文時代早期後半の炉穴11基と前期の竪穴住居跡1軒、土壇37基などが発見されました。縄文前期の土壇のうち23基は、底面に杭状の木材を埋め込んだと考えられる小穴があり、シカやイノシシなどを追い込んで捕まえるための落とし穴と考えられています。

【展示出品資料】

深鉢3、挾状耳飾1、石鏃4、打製石斧2（縄文時代）

平安時代の土器生産のムラ

4 森坂遺跡（入間市上小谷田）

森坂遺跡は、圏央道と国道299号BPが交差する、入間川中流域右岸の加治丘陵上に立地する平安時代の集落跡です。

調査の結果、平安時代の竪穴住居跡1軒、土器焼成遺構3基のほか、調査区南端の谷部には重複した90基以上の粘土採掘坑が発見されました。土器焼成遺構は、赤く焼けた浅い皿状の掘り込みの土壇で、ロクロ土師器の坏や甕などを焼いた遺構であることがわかりました。

【展示出品資料】

瓦塔1、緑釉陶器皿1、坏4、高台付坏5、小型壺1、甕1（平安時代）

丘陵斜面に形成された古代のムラ

5 森坂北遺跡（入間市上小谷田）

森坂北遺跡は、圏央道と西武池袋線が交差する、入間川中流域右岸の標高約110mの加治丘陵東端に立地する奈良・平安時代の集落跡です。圏央道建設によって新たに発見された遺跡です。

調査区南側の埋没谷を望む南斜面を中心に、奈良時代の竪穴住居跡2軒と平安時代の竪穴住居跡2軒などが発見されました。隣接地に須恵器窯跡群があることから、窯業生産に関連したムラである可能性も考えられます。

【展示出品資料】

坏3、蓋2、埴2、鉢1、高台付盤1、コップ形土器1、鉄鉢形土器1、ミニチュア土器1（奈良時代）

珍しい縄文前期終末のムラ

6 八木上遺跡（狹山市笹井）

八木上遺跡は、圏央道と国道 299 号 BP が交差する、入間川中流域左岸の標高約 80m の入間台地上に立地する縄文時代の集落跡です。狹山 PA 建設等に伴い、約 50,000 m² の広大な範囲の発掘調査が実施されました。

調査の結果、縄文時代前期の竪穴住居跡 8 軒と土壇 150 基などが発見され、県内では類例の少なかった縄文時代前期終末の良好な土器群が出土し、縄文土器の研究において貴重な資料となっています。

【展示出品資料】

深鉢 3、打製石斧 2、石皿 1（縄文時代）

ナイフ形石器の製作遺跡

7 西久保遺跡（狹山市根岸）

西久保遺跡は、圏央道と国道 407 号が交差する、入間川中流域左岸の入間台地上に立地する旧石器・平安時代の集落跡で、狹山日高 IC 建設に伴い 60,000 m² の発掘調査が実施されました。

旧石器時代の調査では、石器集中 11 か所と礫群 4 か所が発見されました。チャートの母岩から製品までの製作工程がわかる接合資料など約 3,000 点の石器が出土し、県有形文化財に指定されています。

【展示出品資料】

ナイフ形石器 5、搔・削器 2、剥片 4（旧石器時代）

墨書土器 2、坏 3、埴 1、薬壺 1、甕 1、台付甕 1、紡錘車 1（平安時代）

丘陵斜面の縄文ムラ

8 二反田遺跡（日高市下大谷沢）

二反田遺跡は、狹山日高 IC と圏央鶴ヶ島 IC のほぼ中間、南小畔川左岸の標高約 60m の入間台地上に立地する縄文時代の集落跡です。

調査の結果、北側の調査区では縄文時代中期の竪穴住居跡 13 軒、谷を挟んだ南側の調査区では縄文時代前期の竪穴住居跡 1 軒などが発見されました。住居跡は丘陵の南斜面部の隅あたりの良いところに集中しており、縄文人の土地利用が良くわかる発見となりました。

【展示出品資料】

深鉢 2、小型深鉢 1、有孔罌付土器 1、打製石斧 1、磨製石斧 2、多孔石 1、土鈴 1、有孔土製円板 1（縄文時代）

高麗郡の中心的なムラ

光山遺跡群 ⑨ 上猿ヶ谷戸遺跡（日高市高萩）・⑩ 光山遺跡（川越市笠幡）

光山遺跡群とは、現在の行政区分で別名称となっている2遺跡の総称で、古墳時代後期から奈良時代にかけての集落跡です。圏央道とJR川越線が交差する北側、小畔川左岸の標高約50mの入間台地上に立地します。

本遺跡の主体となるのは奈良時代で、多数の竪穴住居跡や掘立柱建物跡が発見されました。鉄製の轡や鍵などの特殊な遺物や、掘立柱建物跡の多さなどから、高麗郡の中心的な集落であったと考えられています。

【展示出品資料】

坏3、甕1（古墳時代）、墨書土器2、坏7、蓋1、埴2、高坏1、コップ形土器1、紡錘車3、轡1、鎌1、刀子2、釘1、鋤先1、砥石1、台石1（奈良時代）

尖頭器・細石刃の製作遺跡

⑪ 横田遺跡（鶴ヶ島市三ツ木）

横田遺跡は、圏央鶴ヶ島ICの北500m、大谷川右岸の標高約40mの入間台地上に立地する旧石器時代の遺跡です。

遺構は、旧石器時代終末期の石器集中17か所と礫群4か所が発見されました。約4,000点を超える出土した石器量の多さと、原材料となった母岩から尖頭器や細石刃の製品までの製作工程がわかる良好な接合資料を得られたことは、貴重な発見となりました。

【展示出品資料】

細石刃20、細石刃装着模型1、打製石斧1、ナイフ形石器3、尖頭器4、搔・削器2、石錐1、敲石1、台石1、黒曜石原石1、接合資料2（旧石器時代）

鎌倉街道沿いの要所に築かれた館跡

⑫ 宮廻館跡（川越市下広谷）

宮廻館跡は、東武東上線若葉駅の東約1km、越辺川支流の大谷川左岸の標高約27mの入間台地上に立地する鎌倉～室町時代の館跡です。

調査の結果、土塁と堀を二重に巡らす、15世紀に造られた館跡であったことがわかりました。遺跡の東側に鎌倉街道上道の支道である堀兼道のルートが推定されていることから、交通の要所を抑えるための拠点として築造された館跡と考えられています。

【展示出品資料】

かわらけ4、焙烙1、有穴球状製品1、銭貨6、板碑2（鎌倉・室町時代）

まぼろしの中世館跡を発見

13 戸宮前館跡（川越市下広谷）

戸宮前館跡は、宮廻館跡の北 300m に位置する鎌倉～室町時代の館跡で、周辺には宮前館跡、大堀山館跡など中世館跡が数多く確認されています。

調査では、溝で方形に囲まれた区画の中に、掘立柱建物跡、井戸跡などが配置された館跡の一部が発見され、在地産の甕や内耳鍋のほか、常滑・瀬戸産の陶磁器が少量出土しています。出土した遺物から、館跡は 15 世紀から 17 世紀まで機能していたと考えられています。

【展示出品資料】

緑釉小皿 1、かわらけ 3、卸目付大皿 1、内耳鍋 2、片口鉢 1、土釜 1、甕 1（鎌倉・室町時代）

結晶片岩を敷き詰めた特殊な住居跡を発見

14 牛原遺跡（川越市下広谷）

牛原遺跡は、坂戸市役所の西約 3 km、越辺川右岸の標高約 23m の入間台地上に立地する縄文時代の集落跡です。

調査の結果、縄文時代中期前半の竪穴住居跡 6 軒と後期初頭の竪穴住居跡 1 軒などが発見されました。後期の住居跡は、大きさ約 5～140 cm、総重量約 550 kg の結晶片岩を床面に敷き詰めた柄鏡形敷石住居跡で、これらの石材は小川町下里地区の露頭から運ばれてきたと考えられています。

【展示出品資料】

深鉢 3、石鏃 3、打製石斧 1、磨製石斧 2、石皿 2、台石 1（縄文時代）

弥生時代に戦乱はあったのか？

15 木曾免遺跡（坂戸市小沼）

木曾免遺跡は、坂戸 IC 東側の、荒川低地を望む越辺川右岸の入間台地東端に立地する弥生・古墳時代の集落跡です。

発掘された弥生時代中期後半の竪穴住居跡 11 軒の外側に、環濠と呼ばれる深さ約 1 m の防ぎよ用の溝が巡り、その中から捨てられた弥生土器が多量に出土しました。

古墳時代前期の遺構は、方形周溝墓 2 基が調査され、その内の 1 基からは焼成前に底面に孔を開けて作られた祭祀用の壺が出土しました。

【展示出品資料】

壺 2、甕 1、台付甕 1、鉢 1、小型鉢 1、石包丁 1、磨製石鏃 1、打製石斧 2、磨製石斧 1（弥生時代）

壺 4、埴 3、器台 1（古墳時代）

鎌倉幕府御家人の館跡か？

16 堂地遺跡（川島町上伊草）

堂地遺跡は、圏央道と国道 254 号が交差する川島 IC 部分に隣接する、越辺川下流域左岸の自然堤防上に立地する古代・中世の集落跡です。

古代の遺構は、奈良～平安時代の竪穴住居跡 11 軒、井戸跡 3 基などが発見され、出土した須恵器の大半が鳩山町南比企窯跡産の製品でした。

12 世紀後半には、幅約 7 m の大溝に囲まれた館跡が造られ、この地域を治めていたと考えられる武蔵武士中山氏の居館であった可能性があります。

【展示出品資料】

坏 2、高台付坏 1、皿 1、長頸瓶 1、甕 1、灰釉花瓶 1、瓦塔 1（平安時代）
かわらけ 4、板碑 4（鎌倉・室町時代）

静岡県東部から運ばれた土器を発見

17 白井沼遺跡（川島町白井沼）

白井沼遺跡は、川島中学校に隣接した、荒川右岸の標高約 12m の自然堤防上に立地する古墳時代の集落跡です。

調査の結果、古墳時代前期の竪穴住居跡 5 軒、周溝状遺構 4 基、土壇 49 基などが発見されました。本遺跡は、東海地方西部に多く分布する S 字甕や高坏のほか、駿河地方の大廓式土器と呼ばれる大型壺や高坏などの土器が多量に出土している点が特筆されます。

【展示出品資料】

鳥形土製品 2、壺 4、甕 2、S 字甕 1、台付甕 2、高坏 2、器台 2、鉢 1（古墳時代）

低地に造られた古墳前期のニュータウン

18 富田後遺跡（川島町三保谷宿）

富田後遺跡は、川島町役場の東方約 1 km、荒川右岸の荒川低地の自然堤防上に立地する古墳時代を中心とする集落跡です。

調査の結果、古墳時代前期の竪穴住居跡 4 軒、周溝状遺構 96 基、方形周溝墓 7 基と後期の古墳跡 6 基などが発見されました。周溝状遺構とは、低地部の居住に特徴的な排水施設で、遺構数やその密度から、本遺跡が古墳時代前期における拠点的な集落であったことがわかりました。

【展示出品資料】

壺 6、土製模造鏡 1、人物埴輪 1、馬形埴輪 2、円筒埴輪 2（古墳時代）

古墳時代から現代に続く集落域

19 元宿遺跡（川島町三保谷宿）

元宿遺跡は、川島 IC と桶川北本 IC のほぼ中間、荒川右岸の標高約 12m の自然堤防上に立地する古墳・鎌倉～室町・江戸時代の集落跡です。

調査の結果、古墳時代前期の周溝状遺構 11 基、方形周溝墓 6 基と後期の竪穴住居跡 17 軒、鎌倉時代以降の掘立柱建物跡 32 棟、井戸跡 74 基などが発見されました。肥前系、瀬戸・美濃系陶磁器など江戸時代の遺物が多量に出土したことから、地名の由来となった「宿」の存在が窺われます。

【展示出品資料】

坏 4、甕 1、甗 2（古墳時代）、板碑 2（鎌倉・室町時代）

坏 1、小坏 1、碗 5、蓋 1、皿 1、鉢 1、香炉 1、徳利 1、乗燭 1、灯明皿受台 1、仏飯具 1（江戸時代）

荒川河川敷で見つかった縄文のムラ

20 東野遺跡（川島町三保谷宿）

東野遺跡は、荒川右岸の河川敷から発見された遺跡で、現在の地面の約 4.5m 下から縄文時代前期の竪穴住居跡 8 軒や土壌などが発見されました。

遺構内からは、動物（イノシシか？）の骨片や炭化したクルミなどの植物の実が出土し、当時の植生や食生活を推定できる好資料となりました。

縄文時代前期以外の遺構や遺物が見つからなかったことから、前期終末の短い期間に形成された集落であることがわかりました。

【展示出品資料】

深鉢 3、垂飾 1、石鏃 2、打製石斧 2、石核 1、黒曜石原石 1、磨石 1（縄文時代）

水晶製勾玉作り工房跡

21 前原遺跡（桶川市川田谷）

前原遺跡は、荒川左岸の荒川低地を望む標高約 20m の大宮台地西端に立地する縄文・古墳時代の集落跡です。

縄文時代中期後半の住居跡から出土した台付き特殊両耳壺は、他に類例のないトロフィー形をした珍しい土器で、用途はわかっていません。

古墳時代前期の第 2 号住居跡は、東松山市反町遺跡発見例とともに、関東地方最古の水晶の玉作り工房跡と考えられます。

【展示出品資料】

深鉢 2、両耳壺 1（縄文時代）

台付甕 1、器台 2、ガラス小玉 1、勾玉 2、勾玉未製品 12、管玉 1、管玉未製品 10、円盤状石製品未製品 1、砥石 2、敲石 1（古墳時代）

県内最大級の縄文時代環状集落を発見

22 諏訪野遺跡（桶川市川田谷）

諏訪野遺跡は、桶川北本 IC と JR 高崎線の間、荒川支流のひとつ江川中流域右岸の大宮台地上に立地する縄文時代中期の集落跡です。

縄文時代中期の遺構は、竪穴住居跡 78 軒、土壇 375 基、埋甕 2 基などが発見されました。住居は、中央の広場を中心に直径 180m 近いドーナツ状に配置された環状集落であると考えられています。ムラは中期後葉に最盛期を迎えますが、直後の後期には廃絶されてしまいます。

※整理作業中の遺跡であるため、復元作業の終了した一部の資料を展示しています。

【展示出品資料】

深鉢 8、両耳壺 1（縄文時代）

大型化する縄文土器

23 神ノ木 2 遺跡（久喜市菖蒲町柴山枝郷）

神ノ木 2 遺跡は、旧菖蒲町役場南側、野通川下流域左岸の加須低地埋没ローム台地上に立地する縄文・古墳時代の集落跡です。

縄文時代中期の遺構は、竪穴住居跡 108 軒と掘立柱建物跡 16 棟などが発見され、当地域の中心的な環状集落であることがわかりました。深鉢などの縄文土器は大型品が多くなり、この時期の特徴がよく表れています。

古墳時代中～後期は、円墳跡や方墳跡とは別に、剣・刀など豊富な鉄製品を納めた長方形の土壇墓が発見されました。

【展示出品資料】

深鉢 4、浅鉢 1、壺 2、両耳壺 2、注口土器 1、吊り手土器 1、器台 2、石鏃 4、打製石斧 1、磨製石斧 2、石製垂飾 1、石製垂飾品 2、耳飾 4（縄文時代）

坏 4、甕 1、壺 1、小型壺 2、紡錘車 2、鉄剣 1、大刀 1、鉄鏃 2、鎌 1（古墳時代）



縄文時代後期の柄鏡形敷石住居跡（坂東山遺跡）



水晶の出土状況（前原遺跡）